連載・イベント

ふるさと Something NEWS

第⑯回

土木学会の「土木偉人かるた」
――地域活性化ツールとしても活用できる

一般社団法人 洸楓座
一般社団法人 efco.jp
代表理事 佐藤 建吉

▼土木偉人かるた

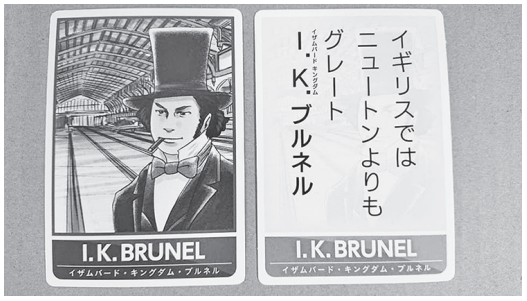
地域活性化や「ふるさと快活」ために有効であると思い、「土木偉人かるた」について紹介したい。

公益社団法人土木学会では、「土木偉人かるた」と名付けた土木偉人を題材にした土木史の入門資料を、昨年2月に発行、販売している。それは、土木分野で活躍した先人たちを「土木偉人」と呼び、彼らの功績や土木事業への熱い思いを、絵札と読み札にした「かるた」の形式で、遊びながら学び知ることを意図して制作された。

「土木偉人かるた」【写真1】には、次の48人が「土木偉人」として取り上げられている。（以下生年順）行基、空海、武田信玄、豊臣秀吉、徳川家康、加藤清正、河村瑞賢、吉川広嘉、津田永忠、D・ベルヌーイ、L・オイラー、伊能忠敬、I・K・ブルネル、濱口梧陵、宇都宮三郎、大倉喜八郎、C・J・ファン・ドールン、E・モレル、R・H・ブラントン、J・デ・レーケ、井上勝、G・A・エッセル、E・ハワード、古市公威、沖野忠雄、W・K・バルトン、後藤新平、白石直治、田辺朔郎、廣井勇、大森房吉、濱野弥四郎、岡崎文吉、青山士、樺島正義、E・フレシネー、早川徳次、太田圓三、K・テルツァーギ、八田與一、赤木正雄、田中豊、吉田徳次郎、物部長穂、久保田豊、宮本武之輔、石川栄耀、亜藝皎一。

何人の名前をご存知だったでしょうか？ どの人も、出自や立場、そして専門分野は異なるが、貯水やダム、堤や河川整備、橋や道路、鉄道や駅、城都市計画、工法や材料、理論や試験方法などの土木事業の実践や基礎に貢献した人々である。

【写真1】「土木偉人かるた」の見本



▼土木学会の変遷と現状

現在の（公社）土木学会は、1914年（大正3年）9月に、「土木工学の進歩と土木事業の発達を図ること」を目的に、社団法人土木学会として設立された。したがって、2014年には100年を迎え、今年は105年を迎える。

年月が経ち、学会の目的に、人と文化と社会のキーワードが追加され「…並びに土木技術者の資質の向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与することを目的とする」と改正された。

土木学会は国家の発展とともに拡大してきたが、その後の土木界の低迷が関係してのようである。日本は国家の成長期が終わり、成熟期と言えば聞こえがいいが成長が止まり国土相手の事業や仕事がなくなり、また3Kという風評もあり、若者や働き手に「土木」の業界が敬遠される現状にある。これを打開すべく会員数約4万人の巨大組織となった技術集団の土木学会も、人と文化と社会という「身近な対象＝人文・社会」に目を向ける必要が生じたといえる。

【写真2】土木学会のフォーラムでのワークショップ風景

▼「土木偉人かるた」の制作と利用

こうして、土木学会にも土木広報センターが2015年6月に設置され、また社会への対応を進めるため教育企画・人材育成委員会も設置された。

筆者は先日8月25日に行われた同委員会の「第11回土木と学校教育フォーラム」で制作された経緯とその利用の方法について知ることができた。

かるたの原点は、子供向けの絵本「土木の絵本」にあった。その絵本は、（一財）全国建設研修センターの公益事業として「国づくりの歴史」や「土木の仕事」の理解を進めるため、子供たち、また小学校や図書館等に無償で、1997年から頒布されていた。画・構成が加古里子氏（昨年5月没）、文・編集が緒方英樹氏で、5冊シリーズである。

第1巻『水とたたかった戦国の武将たち』には、武田信玄、豊臣秀吉、加藤清正が、第2巻『人をたすけ国をつくったお坊さんたち』では、日本の土木工事をひらいた人びとが道昭、行基、空海が、第3巻『おやとい外国人とよばれたひとたち』では、異国にささげた技術と情熱としてモレル、ブラントン、デ・レーケらが、第4巻『近代土木の夜明け』では、日本人技術者の努力と自立として井上勝、古市公威、沖野忠雄、田辺朔郎、広井勇が、第5巻『海をわたり夢をかなえた土木技術者たち』では、青山士、八田與一、久保田豊が紹介されている。

この絵本が教育現場から高い評価を得ていたのでこれを原点に、土木学会の取り組みとして「土木偉人かるた」が企画された。その制作は、土木広報センター土木リテラシー促進グループ長となった前出の緒方氏が監修者として、同促進グループの鈴木三馨氏が作者として、絵は教材画の広野りお氏が担当した。

かるたの利用方法については、松永昭吾氏が説明された。小学生向けでは、かるた遊びで普通の読み札を読んで絵札を取る、というのではなく、読み札は使わず絵札にある偉人の名前を言って絵札を取ってもらい、解説を加えるという方法も、その偉人の業績を覚えて頂くのには効果があり楽しいことを知った。実際、大人を対象にしたフォーラムでのワークショップ【写真2】で実演された。

▼「土木偉人かるた」の波及

フォーラムに参加し、「土木偉人かるた」は、いろいろの方面に応用できると気が付いた。かるたの内容（絵札と読み札）を変えて制作し、例えば冒頭のように地域活性化のイベントで、エネルギー教育に、あるいは、脳活のため町内会や特老施設で適用できる。実は、「土木偉人」は、全国を活動の対象としたので、この「土木偉人かるた」でも、地域自慢を遊びで知ることができるのである。例えば、行基は埼玉県狭山池、信玄は山梨県、清正は熊本県、瑞賢は山形県酒田市、広嘉は山口県の錦帯橋、ブラントンは和歌山県樫野崎灯台などである。筆者が関わった偉人のI・K・ブルネルは、イギリスのブリストルの駅などである。

このように、「土木偉人かるた」は、一枚のかるたで、人物の出自・事績、時代・年代、地域・場所など、知の歓喜とともに地域自慢ができる快活ツールでもある。

なお、東京都中央区築地4丁目の「築地よりみち館」において、2019年9月6日から10月26日まで、「挑戦するエンジニアブルネル父子の偉大なる軌跡展」が開催されるが「土木偉人かるた」も展示される。